

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	むかわ町子ども発達支援センター鶴川たんぼぼ			
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年2月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年12月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用するお子さんに合わせた活動プログラムの提供を行っている	お子さんの発達段階や発達特性を考慮して活動プログラムを立案し、個別や小集団での関わりの中で介入を行っている。	根拠に基づいた質の高い支援を行うことができるよう、今後とも職員研修などを通して研鑽を積む必要がある。
2	関係機関との連携を図りながら、お子さんの生活に寄り添った支援を行っている	ほとんどのお子さんが所属しているこども園との定期的な会議や、送迎時の情報交換などを通じて事業所以外での姿も知ること、お子さんを多方面から捉えることができるよう心掛けている。	関係機関との信頼関係を築きながら、協力し合える体制を作っていきたい。
3	外部機関とも連携し、お子さんについての理解を深めている	専門支援事業や地域療育支援事業などを活用し、より専門的な見地からの支援ができるよう助言を得る機会を設けている。	できるだけ多くのお子さんについてスーパーバイズを受けられるよう調整するとともに、職員自身の知識や技術のアップデートも常に心掛ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない	事業所の開所時間内での設定となると、参加できる保護者が少なく、開催自体が難しい。	保護者の意向を聞き取ってどのような機会を求めているかを把握し、ニーズにあった取組を検討する必要がある。
2	非常時の対応についての周知が不足している	各種マニュアルや計画、安全への取組等について積極的な周知を図ってこなかった。	左記について、契約時の説明だけでなく日頃から通信への掲載などを通して、情報発信を行っていく必要がある。
3	地域に開かれた運営を行えているとはいいがたい	一般開放という形で町内の親子に事業所の施設を利用しているが、対象者の減少や他の同様の施設の開設などもあり利用が減少している。	事業所の強みを活かした形での実施を検討し、より多くの方に利用していただけるようにしていきたい。